



2025春闘を職場・地域から闘おう！ ③

イカサマ表記の回答は許さない！ 2025春闘第2回団交

本部は本日、2025年度賃金引き上げ、夏季手当及び諸要求の申し入れについての第2回団体交渉を開催し、会社から申し入れに対する回答が示されました。

会社回答は「そのような考えはない」の繰り返しでした。2025年3月期の第3四半期決算（連結）は3,768億円の利益を計上し、通期予想では3,880億円に上方修正しました。年末年始輸送は、431万5千人、前年比の結果は108%（2018年比105%）となり、過去最高を記録しました。これは、私たちが要求している賃金引き上げや労働条件改善が充分できる経営体力であるということであり、要求を拒む理由はありません。

JR東海の昨年のベアは極わずかの7,000円で、世間相場を大きく下回り、格差が拡大しました。しかも、2年連続でベアとは別に基準内賃金を増額することで、賃上げが世間並みになったことをアピールしたのです（去年は、B級地に月額15,000円の調整手当、リニア中央新幹線山梨実験センター車両基地に月額40,000円の特地手当を新設）。本部は、このようなイカサマ回答を許さず、満額回答に向けて会社を追及していきます。

一方、低額回答を支えたのが、言うまでもなくJR東海ユニオン指導部です。今年も低額要求です。春闘の足を引っ張っていることは間違いありません。

会社は、今年も賃上げを極力抑える言い訳に終始しています。これは、リニア建設費が経営負担になっているからです。悪夢のリニアから撤退すれば、賃金も労働条件も改善されること間違いなしです。